主の昇天(ルカ 24:46-53)

復活したイエスは私たちの太陽となられた

主の復活のあとの教会の祝祭日と言うと、主の昇天・聖霊降臨・三位一体・キリストの聖体・イエスの御心と続くのですが、小学生高学年と中学生にはこの並びで教会は祝っているからよく覚えておきなさいと常々言い聞かせてきました。「覚えたかどうか確かめるから、一人ずつ言ってごらん」と指名してみると、最初の「主の昇天」が出てきません。

しかたなく、例のヒントを言うわけです。「たったたたたたた、たった。」これですぐに思い出してくれる子どもはありがたいのですが、中にはいつまでも私に歌わせる子どもがいます。「たたたたたたた、たたたたたたた、たったーたたた。」最後まで歌い終わって、「思い出した？」と言っても「分かりません」開き直るので、「しょうてんだろ、しょうてん。」「あ～！」これまで何十年も繰り返してきた光景です。

太陽はすばらしいです。地球の半分を、一個の太陽で照らしています。地球の始まりから、おそらく地球が終わるまで、太陽のお世話になることでしょう。人工の照明灯ではそうはいきません。どんなに巨大な照明灯を作ったとしても、一個で照らせる範囲はたかが知れています。

それと人工の照明等は、24 時間 365 日使い続けるとどれくらいの期間照らしてくれるでしょうか？一年？五年？十年？期間もたかが知れています。これだけでも、いかに太陽が優れているかが分かります。

太陽は人工ですか？まさかですよね。偶然できあがったという人もいるかも知れませんが、中田神父は神様がお造りになったと信じたいです。その、神がお造りになった一個の太陽がこれほどすばらしいのであれば、誰からも造られていない神はどれほどすばらしいお方でしょうか。

ここまで話すと、おおよそ結論はお分かりのことでしょう。主の昇天は、復活された主イエスが、私たちの太陽となられたということです。或いは、復活したイエスが私たちの太陽であることを証明してくださった出来事と言えるかも知れません。

しかも、主イエスは、地球にとっての太陽のように半球だけを照らすわけではありません。地球全体を、人類すべてを、24 時間 365 日、初めもなく終わりもなく照らしてくださる方となられたのです。

「人類すべてを照らす」とはどういうことでしょうか。「頑なに太陽に照らされることを拒む人にも、太陽がその人を照らす」ということです。つい最近のことですが、ロシアの極東、ウラジオストクを中心都市とする沿海地方の議会で、野党議員の一人が発言し、ウクライナ侵攻の中止とロシア軍の即時撤退を訴える声明を読み上げたのだそうです。

地方の一議員の発言かも知れませんが、世界中に報道されたことで頑なに復活したイエスの照らしを拒む為政者の心にも、必要な照らしが与えられると信じています。

天に昇り、御父の右におられる主イエスが、これからも必要な照らしを与え続けてくれることを信じ、世界平和のために祈り続けることにいたしましょう。